

佐賀県における半農半漁の2類型 ——「海浜台地学」第Ⅱ編第1章第1節第2項——

小林 恒 夫

佐賀県唐津市松南町152-1 佐賀大学海浜台地生物生産研究センター

Two Types of the Fishery Households Who Are Engaged in Farming Together in Saga Prefecture

Tsuneo KOBAYASHI

Marine and Highland Bioscience Center, Saga University
152-1 Shonan-cho, Karatsu, Saga 847-0021, Japan

要 約

佐賀県はわが国で最も高い割合で典型的な半農半漁経営体が存続している地域であるが、そのような実態を象徴的に示しているのは、県南の有明海区である。そして、そこにおける大半の半農半漁の経営内容は、「冬季のり漁業+夏期稲作」であり、単一的なあり方を呈している。

しかし他方、県北の東松浦半島（上場台地）周辺の松浦（玄海）海区においても、半農半漁割合は全国平均水準だが、多様な漁業種類を経営の主体とするもう1つのタイプの半農半漁のあり方が存在している。そして、この玄海海区の多様で豊かな漁業経営体は、半島地域の条件不利農業を補完する役割を担っているものと考えられる。

Summary

I found out two types of fishery households who are engaged in farming together in Saga Prefecture. One is at the side of Ariake Sea in southern area in Saga Prefecture. And most of them operate "Nori" aquaculture and rice production. The other type is at the side of Matsuura (Genkai) Sea in northern area in Saga Prefecture. And they operate wide variety of fishery and paddy and upland farming. I think that in northern area handicapped farming is complemented by these rich variety of fishery.

1. はじめに

—— 日本最大の半農半漁地域＝佐賀県 ——

「海と台地」本号前稿（註1）において、佐賀県が日本で最大の半農半漁地帯であることが判明した。しかし、この点に関しても、これまでの先行研究は見あたらない。したがって佐賀県の半農半漁の全体像はいまだ明らかにされたことはない。

そこで本稿は、佐賀県における半農半漁の全体像を概観することを目的とする。なお、本稿も本号前稿同様、一般的統計分析によっている。佐賀県における半農半漁に関し、歴史的展開と地域的存在状況の2点に注目してみたい。

2. 佐賀県における半農半漁経営の動向

表1は佐賀県における半農半漁経営体の動向を見たものである。また図1はそれと重複するが、内容構成を分かりやすく示すために作成したものである。これらの図表から以下の諸点が指摘できる。

第1は、本号前稿で見た全国の動向と同様、佐賀県においても、この20年間で半農半漁経営体数が3分1に激減したことである。

第2に、しかし一方で、その割合は1978年の50%弱から98年の28%へと約半減したにとどまっていることである。なかでも半農半漁の典型的実態を持つと考えられる「狭義の半農半漁」（「主とする兼業種類が自営農業である漁業経営体」）の割合

（註1）小林恒夫（2000b）を参照。

が1998年で全国一の22.3%を保持している。さらにその中でも、「漁業を主とする経営体」(I兼漁家)、すなわち半農半漁の典型的形態と考えられる「漁業+農業」を経営の中心とする半農半漁の類型の割合が約19%とだんトツとなっている(註1)。以上のデータは佐賀県を全国一の半農半漁県と呼ぶにふさわしい十分な中身を示していると言える。

こうして、結局、「漁業+農業」を経営の中心に据える典型的な半農半漁形態が佐賀県の半農半漁の大半を占めている実態にあるとみることができる(図1)。

(註1) この割合が10%を超えるのは、全国で佐賀県と福岡県(13%)の2県のみであり、両県のこの数値は他に抜き出ている。本号前稿の図4参照。

表1 佐賀県における半農半漁経営体数の推移(佐賀県2海区分別)

| | 個人漁業経営体数 A | 自営農業を営んだ漁業経営体数 | | | 主とする兼業種類が農業である漁業経営体数 | | | 主とする兼業種類ではないが自営農業を営んだ漁業経営体数 | | | |
|------|---------------|----------------|---------------|-------------|----------------------|---------------|------------|-----------------------------|------------|------------|-------------|
| | | I兼 | II兼 | 計B | I兼 | II兼 | 計C | I兼 | II兼 | 計D | |
| 県 | 1978 | 4,653 100.0 | 1,954 42.0 | 365 7.8 | 2,319 49.8 | 1,748 37.6 | 254 5.5 | 2,002 43.0 | 206 4.4 | 111 2.4 | 317 6.8 |
| | 93 | 3,487 100.0 | 957 27.4 | 205 5.9 | 1,162 33.3 | 857 24.6 | 131 3.8 | 988 28.3 | 100 2.9 | 74 2.1 | 174 5.0 |
| 計 | 98 | 2,822 100.0 | 616 21.8 | 173 6.1 | 789 28.0 | 531 18.8 | 98 3.5 | 629 22.3 | 85 3.0 | 75 2.7 | 160 5.7 |
| 松浦海区 | 1978 | 1,920 100.0 | 359 18.7 | 255 13.3 | 614 32.0 | 241 12.6 | 159 8.3 | 400 20.8 | 118 6.1 | 96 5.0 | 214 11.1 |
| | 93 | 1,343 100.0 | 90 6.7 | 117 8.7 | 207 15.4 | 64 4.8 | 75 5.6 | 139 10.3 | 26 1.9 | 42 3.1 | 68 5.1 |
| | 98 | 1,147 100.0 | 101 8.8 | 87 7.6 | 188 16.4 | 61 5.3 | 53 4.6 | 114 9.9 | 40 3.5 | 34 3.0 | 74 6.5 |
| 有明海区 | 1978 | 2,733 100.0 | 1,595 58.4 | 110 4.0 | 1,705 62.4 | 1,507 55.1 | 95 3.5 | 1,602 58.6 | 88 3.2 | 15 0.5 | 103 3.8 |
| | 93 | 2,144 100.0 | 867 40.4 | 88 4.1 | 955 44.5 | 793 37.0 | 56 2.6 | 849 39.6 | 74 3.5 | 32 1.5 | 106 4.9 |
| | 98 | 1,675 100.0 | 515 30.7 | 86 5.1 | 601 35.9 | 470 28.1 | 45 2.7 | 515 30.7 | 45 2.7 | 41 2.4 | 86 5.1 |

資料：漁業センサス。

| | | | | | |
|------|-------------------------------------|-----------------|-------------------------------------|-------------------------------------|------------------------------------|
| 1993 | 自営農業を営んだ漁業経営体 1,162(33.3%) | | | | 個人漁業経営体 総数 3,487 (100.0%) |
| | 主とする兼業種類が自営農業である漁業経営体 988(28.3%) | | | 主とする兼業種類ではないが農業を営んだ漁業経営体 174(5%) | |
| | 漁業を主とする漁業経営体(I兼) 857(24.6%) | | 漁業を従とする漁業経営体(II兼) 131(3.8%) | I兼 100(2.9%) II兼 74(2.1%) | |
| 1998 | 自営農業を営んだ漁業経営体 789(28.0%) | | | | 個人漁業経営体 総数 2,822 (100.0%) |
| | 主とする兼業種類が自営農業である漁業経営体 629(22.3%) | | 主とする兼業ではないが農業を営んだ漁業経営体 160(5.7%) | | |
| | 漁業を主とする漁業経営体(I兼) 531(18.8%) | II兼 98(3.5%) | I兼 85(3%) | II兼 75(2.7%) | |

図1 自営農業を営んだ個人漁業経営体の内訳と推移(佐賀県)

資料：漁業センサス。

3. 佐賀県における半農半漁経営の2類型

佐賀県には2つの海面漁業地域（海区）が存在する。1つは県北西部の玄界灘沿岸の松浦（玄海）海区であり、もう1つは県南部の有明海沿岸の有明海区である。そして両区の半農半漁には、半農半漁経営体数割合、兼業内訳、漁業種類、経営形態などにおいて大きな違いが存在する。

(1) 半農半漁の典型地帯＝有明海区

まず半農半漁経営体数の割合であるが、松浦海区では1998年において半農半漁経営体数割合は16.4%と全国水準の14.1%を若干上回る程度であるのに対し、一方、有明海区のそれは98年でも35.9%と全国水準の2倍を超える高さを保持している。こうして、上述の「佐賀県は日本一の半農半漁地帯」というのは、実はこの有明海区の実態が反映された結果であり、両海区に地域差があることに注意する必要がある。

(2) 「主とする兼業種類が農業である」漁家および

第Ⅰ種兼業漁家の割合がともに高い有明海区
次いで自営農業が「主とする兼業種類」かどうかで見ると、松浦海区では自営農業が「主とする兼業種類ではない」半農半漁経営体の割合も6.5%と「主とする兼業種類」であるその割合の9.9%と大差がないのに対し、有明海区では前者の5.1%に対し後者が30.7%と圧倒的に高い（図2）。

また一方、第Ⅰ種・第Ⅱ種別の兼業内訳（図3）もほぼ同様で、松浦海区では第Ⅰ種8.8%と第Ⅱ種7.6%に大差がないのに対し、有明海区では両者の割合は上記と全く同じ値で第Ⅰ種30.7%、第Ⅱ種5.1%であり、第Ⅰ種兼業漁家の割合の圧倒的高さが確認される。

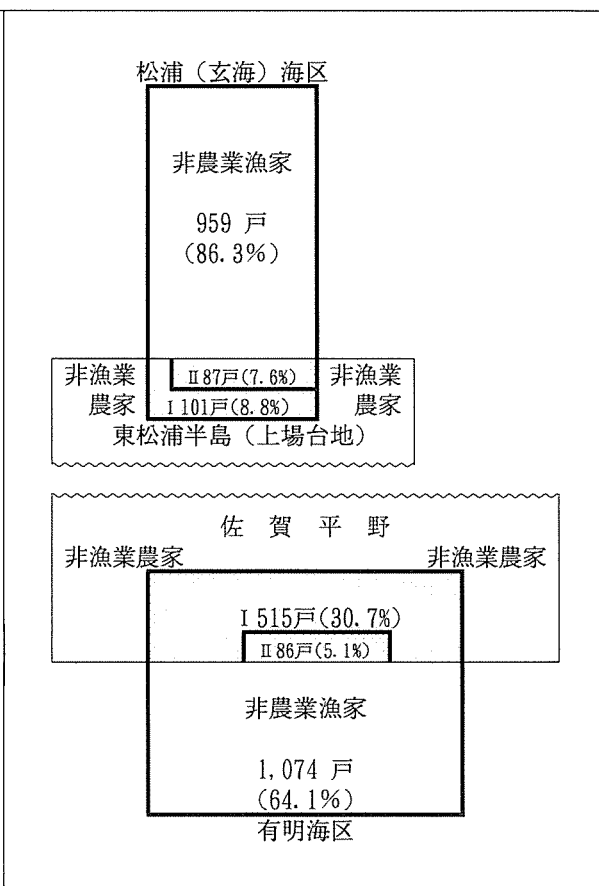
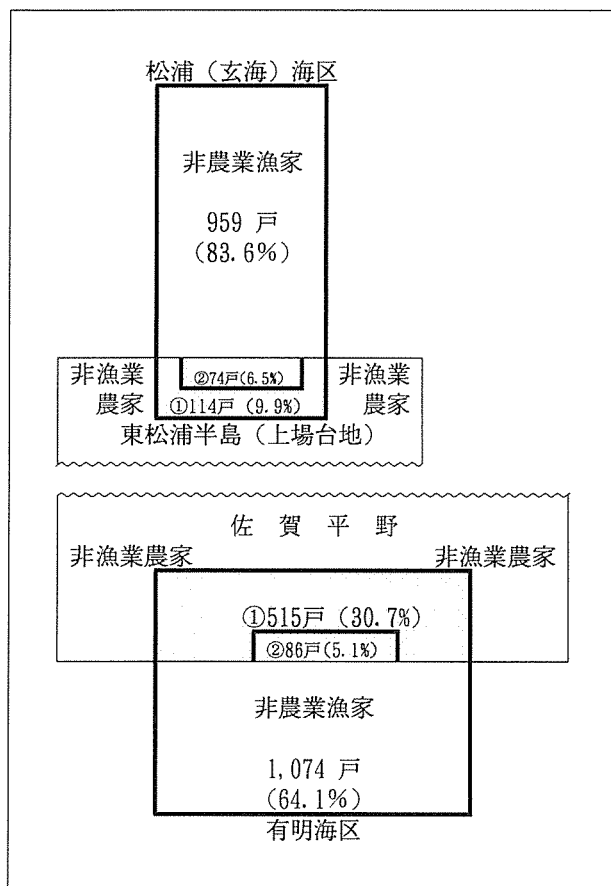


図2 半農半漁の地域分布と兼業種類別内訳(その1)

資料：漁業センサス。

註1：①：主とする兼業種類が農業である漁業経営体数。

②：主とする兼業種類ではないが農業を営んだ漁業経営体数。

註2：％は個人漁業経営体総数に対する割合。

図3 半農半漁の地域分布と兼業種類別内訳(その2)

資料：漁業センサス。

註1：Ⅰ：自営農業を営んだ第Ⅰ種兼業漁家。

Ⅱ：自営農業を営んだ第Ⅱ種兼業漁家。

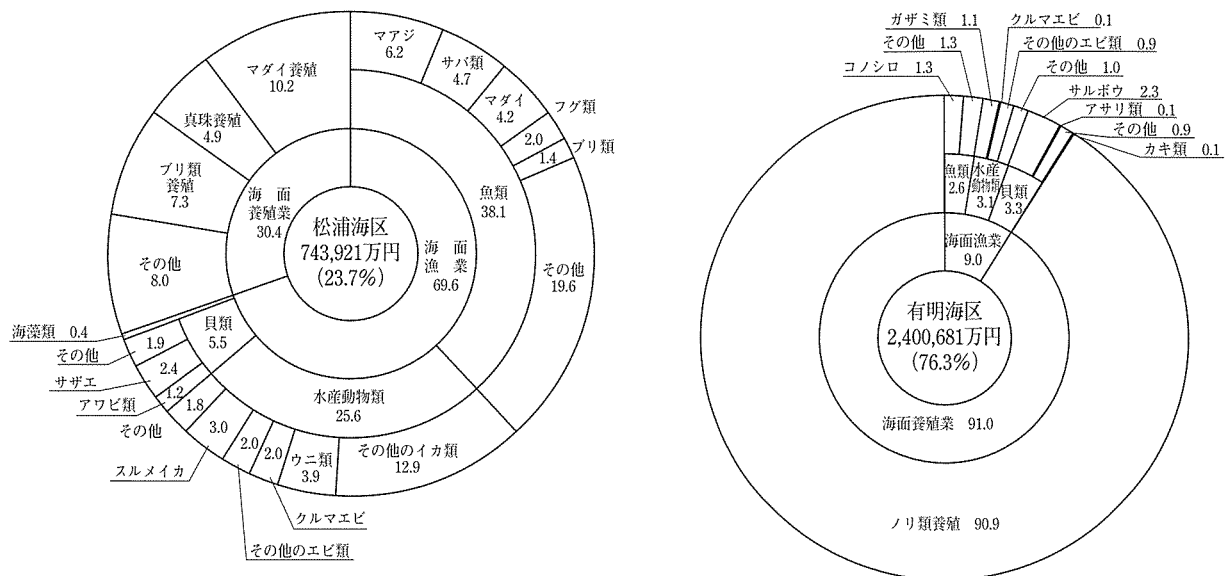


図4 佐賀県内2海区における海面漁業生産額内訳 (1999年度)

資料：『平成12年度佐賀県水産業の動向』(佐賀県水産局, 2000年), p.20.

(3) 多様な漁業種類の松浦海区とのかき養殖業単一的な有明海区の半農半漁

図4に見るように、両海区では捕れる魚介類の種類、したがって漁業種類が大きく異なる。生産額構成において、松浦海区ではマアジ・サバ類・マダイ等の魚類を中心とする海面漁業が全体の70%を占め、また他方の海面養殖業においてもマダイ・ブリといった魚類養殖業が大半を占めているのに対して、有明海区では海面養殖業、すなわちのかき養殖が全体の9割強を占めている。そして後者ののかき養殖業は県全体の漁業生産額の69%のシェアを占めているのである。

したがって以上の漁業種類の異なった2つの地域性を反映し、両海区の半農半漁においても、松浦海区では多様な漁業種類と結合した半農半漁が行われており(註1)、また農業種類も稲作だけでなく東松浦半島(上場台地)の畑作も少なくない(註1)のに対し、有明海区では「のかき養殖業+稲作」といった単一的な半農半漁経営が行われているものと想像される。

4. 市町村別にみた半農半漁経営の地域性

2類型を確認した上で、さらに本節では、もう少し詳しく市町村別に半農半漁経営体数とその内訳を表2および図5に示した。

まず「主とする兼業種類」かどうかでみると、鎮西町と太良町のみが「主とする兼業種類ではないが自営農業を営んだ漁家」数が「主とする兼業

種類が自営農業である漁家」数を上回り、肥前町と千代田町は両者が半々となっているが、その他の市町村では後者が前者を上回っており、県内の大半の市町村において、2で見た県全体としての傾向である「狭義の半農半漁」と目される「主とする兼業種類が自営農業である漁家」が半農半漁の大半を占めている実態が確認できる。

他方、兼業漁家種類で見ると、唐津市と玄海町(しかし玄海町は絶対数が少ない)のみにおいて半農半漁のほとんどがⅡ兼漁家であることに注意する必要がある(註2)。これは唐津市の半農半漁世帯は他の地区と異なり、そのほとんどが漁業の割合が低い農業主体の半農半漁であることが推測される(註3)。

(註1) 小林恒夫(1999), 小林恒夫(2000a)を参照。

(註2) そして実は3の(2)で見た「Ⅰ兼・Ⅱ兼相半ばする松浦海区」というのは唐津市のデータに影響されたフィクションであり、唐津市のみが例外的にⅡ兼主体の半農半漁なのであり、松浦海区の半農半漁全体が「Ⅰ兼・Ⅱ兼相半ばする」わけではなく、唐津市を除く松浦海区のその他の地区も実は有明海区と基本的には同様なⅠ兼主体の半農半漁であるとみられるのである。これは、平均値に見る統計数字の魔術であり、したがって統計数値の慎重な吟味の必要性が求められる一例といえよう。

(註3) その大半は、浜明け期の数日間のみ採藻等を行う「漁家」であるが、漁業権をもつが、実質上は「農家」とみてよい。浜明け期漁業については井元康裕(1999)を参照。

表2 自営農業を営んだ個人漁業経営体数・構成の市町村地域分布（1998年・佐賀県）

| | 個人漁業経営体数 A | 自営農業を営んだ漁業経営体数 | | | 同左割合 B/A | 主とする兼業種類が自営農業である漁業経営体数 | | | 同左割合 C/A | 主とする兼業種類ではないが自営農業を営んだ経営体数 | | | 同左割合 D/A |
|-------|---------------|----------------|-----|-----|-------------|------------------------|-----|-----|-------------|---------------------------|-----|-----|-------------|
| | | I兼 | II兼 | 計B | | I兼 | II兼 | 計C | | I兼 | II兼 | 計D | |
| 県計 | 2,822 | 616 | 173 | 789 | 28.0 | 531 | 98 | 629 | 22.3 | 85 | 75 | 160 | 5.7 |
| 松浦海区計 | 1,147 | 101 | 87 | 188 | 16.4 | 61 | 53 | 114 | 9.9 | 40 | 34 | 74 | 6.5 |
| 浜玉町 | 16 | — | — | — | | — | — | — | | — | — | — | |
| 唐津市 | 287 | 4 | 40 | 44 | 15.3 | 4 | 38 | 42 | 14.6 | — | 2 | 2 | 0.7 |
| 呼子町 | 284 | 31 | 16 | 47 | 16.5 | 24 | 7 | 31 | 10.9 | 7 | 9 | 16 | 5.6 |
| 鎮西町 | 234 | 27 | 13 | 40 | 17.1 | 15 | 5 | 20 | 8.5 | 12 | 8 | 20 | 8.5 |
| 玄海町 | 90 | 1 | 4 | 5 | 5.6 | 1 | 2 | 3 | 3.3 | — | 2 | 2 | 2.2 |
| 肥前町 | 196 | 38 | 14 | 52 | 26.5 | 17 | 1 | 18 | 9.2 | 21 | 13 | 34 | 17.3 |
| 伊万里市 | 40 | — | — | — | | — | — | — | | — | — | — | |
| 有明海区計 | 1,675 | 515 | 86 | 601 | 35.9 | 470 | 45 | 515 | 30.7 | 45 | 41 | 86 | 5.1 |
| 千代田町 | 25 | 21 | — | 21 | 84.0 | 9 | — | 9 | 36.0 | 12 | — | 12 | 48.0 |
| 諸富町 | 96 | — | — | — | | — | — | — | | — | — | — | |
| 川副町 | 481 | 129 | 2 | 131 | 27.2 | 106 | 2 | 108 | 22.5 | 23 | — | 23 | 4.8 |
| 東与賀町 | 101 | 23 | — | 23 | 22.8 | 22 | — | 22 | 21.8 | 1 | — | 1 | 1.0 |
| 佐賀市 | 76 | 9 | 3 | 12 | 15.8 | 7 | 2 | 9 | 11.8 | 2 | 1 | 3 | 3.9 |
| 久保田町 | 61 | 29 | 1 | 30 | 49.2 | 29 | 1 | 30 | 49.2 | — | — | — | |
| 芦刈町 | 116 | 53 | 5 | 58 | 50.0 | 52 | 4 | 56 | 48.3 | 1 | 1 | 2 | 1.7 |
| 福富町 | 31 | 17 | 4 | 21 | 67.7 | 17 | 3 | 20 | 64.5 | — | 1 | 1 | 3.2 |
| 白石町 | 70 | 41 | 24 | 65 | 92.9 | 41 | 20 | 61 | 87.1 | — | 4 | 4 | 5.7 |
| 有明町 | 112 | 59 | 28 | 87 | 77.7 | 58 | 4 | 62 | 55.4 | 1 | 24 | 25 | 22.3 |
| 塩田町 | 1 | 1 | — | 1 | 100.0 | 1 | — | 1 | 100.0 | — | — | — | |
| 鹿島市 | 271 | 122 | 10 | 132 | 48.7 | 120 | 7 | 127 | 46.9 | 2 | 3 | 5 | 1.8 |
| 太良町 | 234 | 11 | 9 | 20 | 8.5 | 8 | 2 | 10 | 4.3 | 3 | 7 | 10 | 4.3 |

資料：『第10次漁業センサ調査結果報告書』（佐賀県統計課，1999年）。

さらに以上のことを図示したのが図5である。

5. まとめと展望

以上の統計分析をまとめると表3のようになる。統計的考察から得られたこのような結果はいついどこまで実態を反映しているのか。それを検証するために、今後とも引き続き具体的な地域分析、漁家・漁業実態調査を進めていきたい。

表3 佐賀県における半農半漁の地域的2類型(総括表)

| | 松浦(玄海)海区 | 有明海区 |
|-------------------------------|---------------------------|--------------------------------------|
| 漁業経営体数 | 1,147 | 1,675 |
| そのうち半農半漁漁業経営体数割合 | 16.4% 全国平均の 14.1%並み | 35.9% 全国平均 14.1%の2倍 水準(全国一) |
| 主とする兼業種類が自営農業である漁業経営体数割合 | 9.9% | 30.7% |
| 主とする兼業種類ではないが自営農業を営んだ漁業経営体数割合 | 6.5% | 5.1% |
| 半農半漁経営体のなかにおけるI兼漁家の割合 | 8.8% | <30.7% |
| 半農半漁経営体のなかにおけるII兼漁家の割合 | 7.6% | 5.1% |
| 漁業種類 | イカ・マアジ・サバ類・マダイ等の多種多様な海面漁業 | のり養殖業が海区漁業総生産額の91%を占める |
| 農業種類 | 稲作・畑作 | 稲作 |

資料：第10次漁業センサ，『平成11年度佐賀県水産業の動向』（佐賀県，2000年）など。

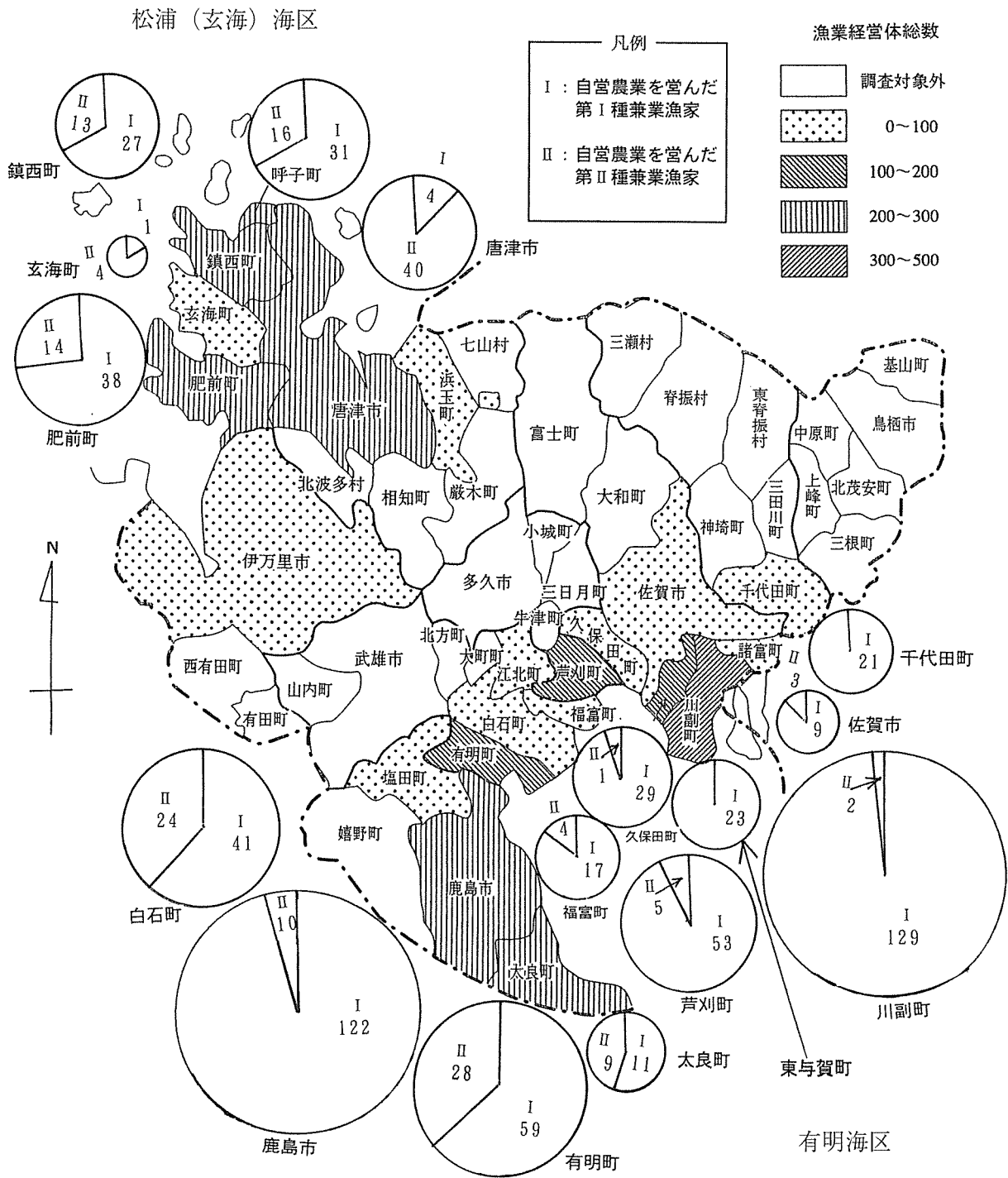


図5 市町村別に見た漁業経営体総数ならびに「半農半漁」経営体数およびその兼業種類別内訳(佐賀県, 1998年)
 資料: 『第10次漁業センサ調査結果報告書』(佐賀県統計課, 1999年)掲載表に筆者加筆。加筆データも同センサスより。
 註: ○内が「半農半漁」(自営農業を営んだ漁業経営体)数とその兼業種類別内訳。

引用文献

1. 井元康裕 (1999) : 漁家らしい漁家とは何か, 農林統計協会, 1-116.
2. 小林恒夫 (1999) : 半農半漁村における農業と漁業の構造変動, 海と台地, 10, 1-15.
3. 小林恒夫 (2000a) : 半農半漁未整備畑作台地における就業構造と農地利用の変容, 海と台地, 11, 1-9. および半農半漁棚田地帯における農漁家・農漁業の全体構図, 海と台地, 11, 11-21.

4. 小林恒夫 (2000b) : 半農半漁の歴史的推移と現状, 海と台地, 12, 1-8.

付 記

本稿の統計利用に際しても農水省佐賀統計情報事務所から多大なご協力を賜った。記して感謝を申し上げたい。